

2017/6/1号

〒657-0064 神戸市灘区山田町3丁目1-1 神戸学生青年センター内

食品公害を追放し安全な食べ物を求める会

TEL & FAX : 078-822-0810 第2FAX : 078-842-2430

■URL・http://www.motomerukai.com

■Email : info.motomerukai@gmail.com

# 求める会ニュース No. 941

5月全体会報告

5月17日(水) 10:00~12:30

代表の大野貞枝さんが長期入院中のため、復帰するまで今月の副代表と次の月の副代表とが協力し、2人体制で担うことにします。

## 検討事項

### 1. 地域集会 初夏のつどいについて

・初夏のつどいは新しいグループ代表や新入会員の顔合わせなどの意味もあったが、今は一般会員の参加が少なく、部員ばかりという地域もある。

・地域集会をせずに、グループ内や会との交流もなくなれば、求める会の意義や運動の精神も薄まり、物を購入するだけになる。

・若い人にもアタックしなければ会の維持は難しい。“おいしいね、シリーズのようなイベントを負担のない形で開いたり、大豆畑トラストへの参加を呼び掛けたりしては？

・大きく3カ所くらいで集まるのはどうか。→そうなれば、人によっては遠くなる。

・地域を小さく区切って場所を増やせば、会員係の負担が大きくなる。

・逆瀬川Gでは新年会やグループ集会、味噌作りをやっており地域集会はなくてもいい。

初夏のつどいをやらないことも含めて、各地域に任せることになった(挙手多数)。

### 2. 収穫感謝祭について

・会場を屋外に移してはどうかという意見もあったが、天候や食事の支度など考えれば、今までどおりでよい。

・会員が少なくなっているのに、食堂や喫茶を東西に分けて担当するのは無理。

・若い人は安全な食材を欲しいとは思っている。収穫感謝祭のようなイベントがあれば参加したいと思っているようだ。

来年も収穫感謝祭を開くことに、挙手多数

で決定。11月25日(土)の予定。

### 3. 求める会ニュースの発行を月1回にすることについて

印刷費・郵送費の削減、あしの会の配送になってニュースをトラックに載せる日程調整が難しくなった、記事がない場合の紙面作りに苦心する、広報係の日程調整が難しい、などの理由で、月1回発行の提案があり、挙手多数で了承された。6月から実施。

### 4. 総会について

・議事だけでなく、会員からも質問や意見が出てよかった。

・日ごろ顔を合わせる事のない生産者同士が集まって交流しているのがよかった。生産者から異常気象による農業被害の話が聞けたことはよかった。

・お寿司は具も多く、量も十分だった。

来年の総会は、5月26日(土)の予定。

## 報告事項

【生産者担当】◎野菜…大コンテナ100、小コンテナ317 計417

・今週から豆類(スナックエンドウ、オランダなど)、小松菜、ホウレンソウが出る。

・葉タマネギは、間引き菜扱いで安くしていたが、3~4本150円にした。玉も葉もおいしいので、端境期対策にいい。

5月27日(土)市有研との話し合い(於ライブピアいちじま)

◎米…田植えに入る。池野さんは今年保田ぼかしを使用すること

◎卵…順調です。鶏肉…来週70パック(橋本20、大谷50)配送がある。

◎果物…木曜コースは配送が多いので、グループで分けるところは野菜配送日に、個別直送は別の日に配送する。甘夏はまだ申し込み可能です。

【事業部担当】・申し込みは期限を守ってく

ださい。・お茶、油、事業部の物品が入った箱はつぶさないで返して。・醤油のビンは回収、牛乳パック回収するかどうか確認する。

【学習研究担当】大豆畑トラストの味噌は6月にずれ込む。5月、福島のとびのび園に卵160個送る。阪神・市民放射能研究所に会費4000円納入。

### 食料環境セミナー報告

5月24日(水) 10:30~12:00

「沈黙の春から夏へ」

牛尾農園・牛尾 武博さん

1962年、レイチェル・カーソン著「沈黙の春」は生態系の危機を世界に告発した。

春には野原に花が一面に咲き、小鳥がいつぱい鳴いているはずだった。にもかかわらず沈黙が続いている。自然界ではありとあらゆる生き物が激減して、深刻な状況である。

この状況のなかでも日本での農薬使用量は世界でも高く、食品添加物も40年前の4倍にも増えている。これで本当に食の安全が確保できたのだろうか？

牛尾農園の牛尾さんは35年前に14年間勤めた会社を辞めて、本格的に有機栽培の循環型農業を始めた。兵庫県神崎郡市川町で、無農薬・無化学肥料の野菜とお米を栽培し、600羽の鶏を平飼鶏舎で飼育している。肥料には、主に自家製の平飼い鶏糞を利用し、お米はアイガモ農法で栽培している。

2014年からは長男夫婦が経営を引き継ぎ家族経営の農場である。農薬、化学肥料は一切使用していないが、有機JASの認定は受けておらず、今後も認定を受ける予定はないが、品質には自信をもってやっている。

毎年、中学生のトライやるウィークを受け入れ、田植え、たまねぎの収穫、にんにくの定植など農作業を一生懸命手伝ってくれる。最終日は農場で飼育している鶏を解体、とれたての野菜と一緒にバーベキューをして、

【その他】あしの会の配送は予想以上にうまく運び、移行に伴うトラブルは特にないようなので、移行チームは1カ月ほど様子を見て解散してもいいと思っている。

【お知らせ】6月14日=部会、6月21日=全体会

6月の副代表は藤原、当番は吉川、小浦

命をいただくという貴重な体験をとおして食べ物の大切さを学ぶ。見学者も多く受け入れられている。

牛尾さんが有機農業を始めた1982年ごろはまだ生態系は豊かだった。水田の上を飛んでいるトンボの種類の数、いろいろな蝶、蛙、蛇、渡り鳥が来れば山ではどれほどにぎやかに鳴いていたか。山の中、水田、里山、清らかな小川の中で生き物が進化して豊かな生態系が出来る。農業をとおしていろいろな生き物と遭遇し、生態を知ることができる。今では生き物と遭遇することが激減し、生態系が悪化して自然界の生き物は深刻な危機的状況である。

1990年代からネオニコチノイド系農薬の使用量が増えているのに日本では規制されていない。

農水省は最近、有機農業とは言わなくなってきている。有機農業者は0.5%にすぎず増えていない。国、大学で本気で有機農業を推進しなければ世界から置いてきぼりになる。生態系を守るためにも有機農業を広める政策を講じていかなければならない。

日本の有機農業はさまざまな問題を抱えているが、出来るだけ頑張りますとのお話でした。(本一G 福本 志津子)

### 次回食料環境セミナー

「有機農業がめざしてきたもの、めざすもの」

神戸大学名誉教授・NPO 法人兵庫農漁村

社会研究所理事長 保田 茂さん

6月28日(水) 10:30~12:00

## 市有研との話し合い報告

5月27日(土) 於ライフピアいちじま

(参加者) 市有研＝一色富士夫、大谷純治、橋本慶子

求める会＝小浦節子、岡和美、松島恵子、今田裕子

日差しが穏やかな中、小浦さん運転の車で出発しました。途中、エニシダ、桐の花が美しく山を彩る一方で、特定外来生物の材キクヱグが至る所に群生しているのに驚きました。

話し合いは、5月全体会で論争になった「葉玉ねぎは間引き菜か、葉玉ねぎという品種か」という質問から始まりました。結論は間引き菜には違いないのですが、苗床から畑に定植したものを抜くのではなく、定植せず、苗床に残した苗が春に成長したものを葉玉ねぎとして出荷するのだそうです。全体が柔らかくておいしいので、端境期対策として今後も出荷をお願いしました。

ハウスの修理は、業者、資材が足りず遅れに遅れて、夏野菜への影響のみならず、冬野菜に間に合うのか心配だとのことでした。ハウスは雨除け、獣害対策に必要で、露地栽培だと上からはカラス、下はアライグマ、イノシシにやられてしまいます。

圃場見学についてお聞きしたところ、農業体験や手作り体験をとおして地域の暮らしを学ぶ旅のサイト「TABICA」(タビカ)に兵庫有機農業研究会もエントリーして、8月に予定している映画祭で参加者を募集する企画があり、その企画に求める会が乗ってもいいし、求める会が日程を調整してくれれば、受け入れるとのことでした。

配送があしの会に変わってから、出荷、伝票づくりがとても楽になったそうです。

次回は6月22日か23日の予定。

(逆瀬川G 今田 裕子)

---

## 第32回地域農政フォーラム

5月19日(金)に神戸市勤労会館であり、参加しました。

今回のテーマは「活躍する女性農業者たち」で4名の方が話されました。

①米谷友里さんは神戸市西区在住でサラリーマン家庭・団地育ちの高齢者介護職でしたが、10年前に農業に飛び込み、自宅から畑に通っています。一人が無農薬栽培・出荷をこなし、レストラン7割、一般家庭3割で出荷しています。昨年からは大豆も3.5反作り始めました。味噌・梅干しも作り、油の勉強会も。今後は一般家庭への割合を増やしたいそうです。

②村田靖子さんは元理学療法士で、現在、神戸市北区で夫婦で農業をしています。午前中は農業、午後は消費者との連絡や加工品作りをしています。種は出来るだけ自家採取し、販路はフェイスブック、ファーマーズマーケット、ワークショップなどを利用されています。残った野菜は安価で子供食堂に提供しています。

③黒田美福さんは淡路島でママが活躍できる農業を目指しています。慣行栽培ですが、味の良いもの・鮮度の良いものを心掛け、朝どり収穫もしています。子供に美味しい野菜を食べさせたい思いから始められ、出荷先は市場・マーケット・学校給食などです。

④藤本節代さんは三田市で有機農業をして5年目。保田ぼかしに出会い土作りが基本だと知り、有機栽培に切り替えました。水稻90a、野菜90a(50品目、130種類)に今年すべてJAS認証を取ったそうです。有機農業教室や講座のサポーター・親子食育・インターンシップの受け入れなど幅広く活躍され、夢は庭カフェをしたい!とのことでした。

農業は大変な仕事ですが、4人の方はどこか楽しんでおられ、次々と工夫され、それが泉のように湧き出してくる感じを受けました。

(センターG 茂松 訓子)

## 6月のカレンダー



6月14日(水) 部会  
 6月20日(火) 自動引落日  
 共同購入申込締切日  
 6月21日(水) 全体会  
 6月28日(水) 食料環境セミナー

### 食料環境セミナー

#### シリーズ「地域に希望を ～これまでの農業、これからの農業～」

「有機農業が目指して来たもの、目指すもの」 6月28日(水) 10:30~12:00

神戸大学名誉教授・NPO 法人 兵庫農漁村  
 社会研究所理事長 保田 茂さん

会場：神戸学生青年センター

参加費：600円

※託児あり(無料) 前々日までに要予約

TEL078-851-2760

主催：(公財)神戸学生青年センター

ニュース940号4面の「事務所への電話についてお願い」で、事務所に当番がいるのは火・木・金です。お詫びして訂正します。

## 6月全体会検討議題

- ①各部本年度の活動計画について
- ②新しい配送体制について 今後のあしの会と求める会の関係について

### 山本農園からのFAXより(抜粋)

昨年は梅畑の9割が雹被害に遭い大変でした。追い打ちをかけるように夏の干ばつで、翌年の作柄を心配しましたが、予想が的中してしまいました。不作です。2年続きの被害ですが、少しずつ無農薬の畑を増やしましたので価格は例年通りでお届けします。



### 求める会ニュースの発行について

6月から求める会ニュースは月1回の発行になります。5月部会で提案、全体会で承認されました。求める会の経費削減と共に、配送形態が変わったことなどが理由です。月1回になることで、タイムリーな記事の掲載が難しくなることもあると思いますが、ご理解いただきますようお願いいたします。ご意見やご希望があればお知らせください。(広報担当)

## “初夏のつどい”のお知らせ

今年は初夏のつどいが行われない地域があります。地域が異なっても、参加したいと思われる会場に是非ご参加ください。食事の予約の必要がある会場は、お早めに各連絡先までお願いします。

地域	日時	会場	連絡先
灘・東灘・中央区	6月24日(土) 11:30~14:00	御影荘 (078-851-7363) 昼食1,500円 阪急御影駅南口 11:20集合	岡部 6/14まで
尼崎・西宮・芦屋	7月5日(水) 10:00~11:30	ホテル竹園1F マグネット カフェ JR芦屋駅北口2分	猪飼
兵庫・長田・北区	日は未定。後日連絡 します。 14:00~16:00	熊野地域福祉センター JR 神戸駅市バス⑥⑦⑪夢野町2 丁目下車 熊野神社北へ2分	明松
※宝塚、須磨・垂水・西区、明石・加古川・高砂地区は行われません			